

特任講師

池田 佐輪子

■ 学歴

1. 2014年 北九州市立大学大学院社会システム研究科地域コミュニティ専攻（修士課程）修了

■ 学位

1. 2014年 修士（人間関係学）

■ 研究分野

1. 人間関係学（臨床教育学）
2. 保育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 代替的愛着、自我・社会性の発達、行動制御システム、内的作業モデル
2. 代替的愛着、自我・社会性の発達、養育者支援、就学支援
- 3.

■ 研究課題

1. 臨床教育学に関して、保育所保育士による代替的愛着形成と発達支援を中心に考察する。特に、養育者との愛着に歪みを感じられる虐待的環境にある子ども、発達に偏りを感じられる子どもの育ちを保障するための保育士の関わりについて考察する。
2. 保育所での3歳未満児に対する代替的愛着関係が、養育者と子どもとの愛着の修復に有効であること、その愛着関係を基盤に就学までの養育者支援として応用していく方向を検討・考察する。

■ 担当授業科目

1. 保育実習指導Ⅰ（通年） 選択
2. 保育実習指導Ⅱ（通年） 選択
3. 保育実習指導Ⅲ（通年） 選択
4. 乳児保育Ⅰ（後期） 選択
5. 乳児保育Ⅱ（前期） 選択
6. 保育者論（前期） 必修
7. 子ども文化（前期） 必修
8. 女性とマナー（前期） 選択
9. 保育・教職実践演習（幼稚園）（後期） 選択
10. 在宅保育（後期） 選択
11. 保育総合表現（後期） 選択（不開講）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名【保育実習指導Ⅰ】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響による実習の制約が解けてきたが、引き続き実習先の理解と協力によって感染症に留意しながら子どもたちを守り育てるための実習に向けた指導を行った。様々な児童福祉施設の特徴を理解したうえで、授業で学んだことが実際の保育実習現場で活かせるように、また実習を通して自分の課題に気付いて次の実習に向けた改善ができるように、それぞれのねらいを明確にする自己課題シートや自己振り返りシートを活用した演習を行った。</p>
2.	<p>授業科目名【保育実習指導Ⅱ】</p> <p>自己課題振り返りシートを用いて保育実習Ⅰでの課題を明確にすることで、次の実習で課題の解決に向けた具体的な取り組みができるようにしていった。特に日誌の記述については、観察力、洞察力が身につくように留意しながら、指導計画については保育活動のねらいを明確にしたうえで、保育実践ができるように指導を行った。</p>
3.	<p>授業科目名【保育実習指導Ⅲ】</p> <p>自己課題振り返りシートを用いて保育実習Ⅰでの課題を明確にすることで、次の実習で課題の解決に向けた具体的な取り組みができるようにしていった。またお互いの課題の情報交換をすることで課題を多面的に捉えて解決に向けられるようにしていった。</p>
4.	<p>授業科目名【乳児保育Ⅰ】</p> <p>まずは保育所実習で3歳未満児と関わることを念頭に、3歳未満児のイメージがもちやすいように、写真や実践例が多用されているテキストを用い、基本的な3歳未満児の発達とその発達を促す望ましい関わりとその留意点について講義を行った。また講義授業ではあったが保育所実習を見通し、保育人形を使って、着替え、おむつ交換、授乳、ふれあい遊びなどの演習も取り入れ、具体的に関わり方の基礎が学べるようにした。</p>
5.	<p>授業科目名【乳児保育Ⅱ】</p> <p>1年生での保育所実習も振り返りながら、乳児保育Ⅰでの学びの知識に加えて現場での事例を交え、より現場での保育のイメージがしやすいように説明をしていった。また学んだ知識を応用しながら実習及び現場での実践につながるよう指導計画を立てて検討し、保育所実習Ⅱで活用できるようにした。演習用の人形や教材を使って演習も行い、具体的に実践につなげるようにしていった。</p>
6.	<p>授業科目名【保育者論】</p> <p>テキスト、参考書等を使って、専門職である保育士、幼稚園教諭等の資格を取得するために必要な基本的な知識・技能、倫理観をもれなく学べるように心がけた。また実務家教員として保育現場での実践を踏まえ、具体的な事例を織り交ぜて説明することで、社会に求められる望ましい保育者についての理解を促した。入学時に学生が思い描いた個々の理想の保育者像を最大限生かしつつ、社会に求められ得る保育者像を構築できるよう考慮しながら課題を事前に提示し、個別に考えをまとめたうえで発表を行うことで、自分の意見を持ち、他者と意見交換することで多面的な思考ができるようにした。</p>
7.	<p>授業科目名【子ども文化】</p> <p>具体的な子ども文化財の資料を活用して説明し、まず教員が資料を用いてデモンストレーションを行うことで、実践のイメージがもちやすいようにした。また、学生が各自で実際に制作したものを</p>

	おはなし会の形式で発表することで実践力を身につけると共に、他者の様子も見て学ぶこともねらいとした。さらにお互いの評価点や改善点を伝え合うことで、より工夫した作品を作り、実践する意欲が高まるように心掛けた。特に認定絵本土の取得を視野に、外部講師の協力等も求めて絵本に関する知識、技術が身につくようにした。
8.	<p>授業科目名【女性とマナー】</p> <p>社会人として、また保育学生として必要なマナーについての知識を学び、身につけることができるように、コミュニケーションや人材コンサルティングの専門性を有する外部、内部の講師の協力も得ながら、ロールプレイやディスカッションなどアクティブラーニングの手法を活用した授業を行った。</p>
9.	<p>授業科目名【保育・教職実践演習（幼稚園）】</p> <p>保育現場で必要な実践的な内容について確認したのち、実際に保育指導計画を作成して対面授業で模擬保育を行うことで、保育の実践力を養った。また、全員で保育を振り返り、様々な意見を出し合うことで、多面的な視点をもって課題解決に向けた関わりができるようにしていった。</p>
10.	<p>授業科目名【在宅保育】</p> <p>基本となる保育士としての知識・技能・倫理観等に加え、居宅訪問型保育に対応できる実践力・応用力を身に付けることを重視し、講義で理論の説明をしたうえで、演習において身近にあるペットボトルや牛乳パックなどを利用した玩具作り、子どもの発達に応じた遊びの展開等、学生が主体的に考え、意見を交換しながら保育内容を検討していけるよう配慮した。また子どもの発達や家庭状況に応じた保護者の子育て支援についても事例を取り上げながら検討した。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2018年5月～現在に至る	保育学会	
2.			
3.			

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)					
1.	2024.10 発行予定	イラスト乳児保育	共	東京教学社	① 保育士の資格取得のために必要な保育の理論、実践の内容について整理し、教科書として編まれたものである。内容は、理論に加えて乳幼児の発達に応じた関わり方についても分かりやすく解説し、保育実践につなげられるように構成されている。
2.					

3.					
(学術論文)					
1.					
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2009年4月～2015年3月 2015年4月～現在に至る	・コラボキャンパスネットワ ーク親子ふれあいルーム (親子の遊び場の提供と子育て 支援についてのアドバイス)	実行委員 オブザーバー

2.	2013年3月～現在に至る	・特別非営利活動法人 チャイルドライン北九州 (子どもの電話相談)	理事
3.	2023年4月～現在に至る	・北九州市教育委員会 幼児教育センター (市内の幼稚園の保育に関する 訪問相談、就学支援講座)	幼児教育アドバイザー
4.	2023年8月19日、11月4日	・NPO法人福岡県子ども アドボカシーセンター (「子ども意見表明等支援員 養成講座」)	講師
5.	2023年9月20日	・北九州市社会福祉研究所 (令和4年幼児教育研修 保育 士等キャリアアップ研修分野 ②幼児教育)	講師
6.	2024年1月21日	・北九州市立子育て交流ふれあ いプラザ「元気のもり」 (子どもを支える大人のコミュ ニケーション講座)	講師
7.	2024年3月12日	・北九州市小倉南区 親子ふれあいルーム (絵本講座)	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.			
2.			
3.			